

Page 2015で注目集めた新ソリューション

Adobe Mercury RIPアーキテクチャ採用のハイブリッドワークフロー『XMF V6.1』  
並行処理による圧倒的な生産性に大きな反響



Adobe社のシニアプログラクトマネージャー、Mark Lewicki氏と吉田会長



富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社

平成27年3月10日

2月4日から6日まで

東京・池袋で開催された『Page 2015』の富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ(FFGS)ブースにおいて、最も

注目を集めた新製品の  
一つが、ハイブリッド  
ワークフローシステム  
『XMF V6.1』だ。  
XMFは2007年9  
月の販売開始以来、世  
界で5000台以上、  
国内で1600台以上  
の導入実績を誇る。最  
新版のV6.1は、A  
dobe社の高速演算  
技術「Mercury  
RIPアーキテク  
チャ」の採用により、  
従来の数倍に及ぶ演算  
処理能力を実現し、  
ワークフローの変革に  
大きく貢献するシステ  
ムとなっている。pa  
ge 2015では、そ  
の圧倒的な生産性と具  
体的なメリットを、実  
機展示およびプレゼン  
テーション、セミナー  
によって余すところな  
く紹介した。

●2013年にMer  
cury RIPアー  
キテクチャを世界初採  
用

XMFは、2013  
年リリースのV5.5

で、世界で初めてレンダリングコアに Mercury RIPアーキテクチャを採用。デジタル印刷における処理スピードを大幅に高め、バリアブル印刷もより効率的に行なえるようになった。

Mercury RIPアーキテクチャは、「デジタル印刷機での大量ページ物出力・バリアブルデータ出力の生産性向上」を主眼において開発された技術で、分散多層キャットシュ機能・ダイレクトロードバランシング機能により、ハードウェアの性能を最大限に引き出し、複数ページの演算を並行処理することができ。この技術の採用により、XMF V5.5では、『Jet Press 720』などのデジタル印刷機を、より柔軟に、より効率的に活用することが可能になった。

ただ、実際のXMFの運用形態を見ると、

とくに日本においては、CTP+オフセット印刷とデジタル印刷とが混在するフローが非常に多い。そこで、富士フイルムでは、こうしたハイブリッド運用でもMercury RIPアーキテクチャのメリットを最大限に活かせるよう、独自の技術で最適化を図り、「複数ページの並行処理」に加え、「複数ジョブの並行処理」も可能にした。それが最新版の『XMF V6.1』である。

●CTPセッター5台分のRIP処理を1台でこなす

XMF V6.1は、Mercury RIPアーキテクチャをベースとした「ジョブの並行処理」により、従来比2〜10倍の圧倒的な演算処理能力を実現している。しかも、単に処理スピードが速いだけでなく、ジョブの内容に応じて優先

順位をつけ、それぞれの処理に配分するリソースの割合を柔軟に調整することもできる。

たとえば、クライアントから『XMF Remote』経由で実行されるプレビューやリモート校正を優先処理する設定では、リモート校正にCPUの80%を充て、残りの20%で出力ジョブを処理するといったリソース配分が可能。優先順位の設定は、状況に応じて変更することができる。

さらに、XMF V6.1は、設備の稼働率アップにも大きく貢献する。CTPやプルーファァー、デジタル印刷機への出力ジョブが重なった場合でも、処理待ち時間//が最小限に抑えられ、各出力機をムダなく有効に運用することが可能。

また、CTPセッター(67版機)5台分のRIP処理を1台のXMFでこなせるた

め、出力機に対するRIPの台数を大幅に減らすことができ、管理の手間やコストが削減できるだけでなく、出力機間の演算一致性をつねに確保することも可能になる。

● Adobe・富士フィルム両社の技術の相乗で革新的メリットを提供

XMF V 6.1は、Adobe社の高度なレンダリング技術と富士ファイル独自のソフトウェア技術の相乗によって、ワークフローにこれまでにない生産性をもたらし、デジタル印刷機をはじめとするさまざまなデバイスの効率的・戦略的な活用を可能にする。

Adobe社のシニアプロダクトマネージャー、Mark Lewicki氏は、両社の協業によって実現したXMF V 6.1のメリットについて、次のように述べている。

「富士フィルムが、Adobe PDF Print Engine 技術をベースにXMFを開発し続けてきていることを嬉しく思います。」

Mercury RIPアーキテクチャは、Adobe PDF Print Engineのさまざまなインスタンスを並行処理できる、拡張可能なプラットフォームです。

Mercury RIPアーキテクチャでは、Adobe PDF Print Engineの複数インスタンスを集約し、負荷分散を行なうことで、CPUのマルチコアを活用します。つまり、非常に大容量のジョブでも、ページ毎に、各コアで1ページずつ処理することができます。富士フィルムのお客さまが、Adobe PDF Print Engine 3およびMercury RIP

◇ 「富士フィルムは今後も、ワークフローの中核を担うXMFのさらなる機能強化に取り組み、ユーザーの企業価値アップ、ビジネス拡大に貢献していく。」